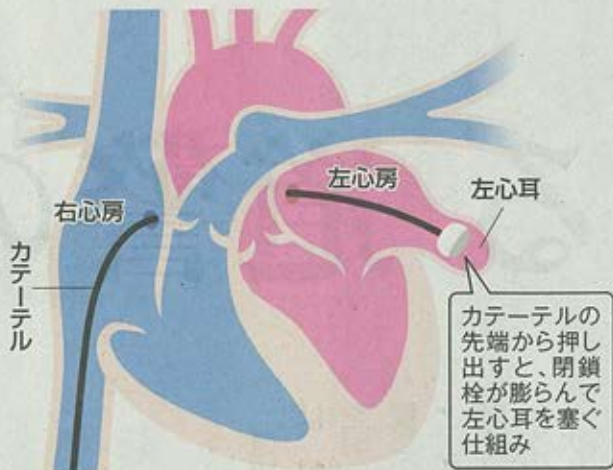


# カテーテルで脳梗塞防止



## 血栓でできる心臓の箇所ふさぐ

不整脈で心臓にできた血栓(血の塊)が脳に流れて脳梗塞を引き起こすのを防ぐ新たな治療が、釧路市の釧路孝仁会記念病院(愛国)で始まった。心臓を動かしたまま、カテーテルを挿入する先端的な手法で、釧路管内で実施しているのは同院のみ。

新たな治療は「経皮的左心耳閉鎖術」。主な対象は、不整脈で血栓ができるのを防ぐために血を固まりにくくする薬を服用している高齢者など。

薬を使うと、心臓にできた血栓が脳に流れて脳梗塞を起こすリスクを下げられる一方、ケガすると血が止まりにくくなる危

## 釧路孝仁会導入 釧路管内で唯一

険もある。この治療で薬の服用を止められる可能性がある。

不整脈や弁膜症などのカテーテル治療経験が豊富な医師が施術でき、道内では札幌、旭川、名寄の計9医療機関と、同院で受けられる。脚のつけ根からカテーテルを挿入し、心臓の中でも血栓のできやすい左心耳を専用の「閉鎖栓」でふさぐ。全身麻酔で治療時間は1時間程度。約5日間で退院でき、高額医療の申請対象。同院では9月末までに15件の治療を行った。

治療を受けるには、事前の受診が必要。同院循環器内科の山本均美不整脈診療部長は「出血リスクの高い患者さんにとつて、安全に脳梗塞を予防できるので、ぜひ相談に来てほしい」と話す。